

第4次蒲郡市男女共同参画プラン策定委員会 第2回会議

令和7年3月18日(火)

14:30~16:00

蒲郡市役所 304 会議室

1 開会

あいさつ

2 議題

- (1) 第4次蒲郡市男女共同参画プラン基礎調査結果報告書について
- (2) 今後のスケジュール

3 閉会

4 参考資料

- ・第4次蒲郡市男女共同参画プラン基礎調査結果報告書

2 議題

(1) 第4次蒲郡市男女共同参画プラン基礎調査結果報告書について

【一般市民調査報告書】

- 事務局：本日の委員会の趣旨はアンケートの調査結果を報告させていただくこと。プランを作るのは来年度となっているので、次回以降に施策についての細かい意見をいただく形になる。今回は調査結果に対するご意見や感想を伺えればと思う。
- A委員：今回第3次プランと調査結果の数値の比較まではできていないが、第3次プランに比べてどのくらい良くなっているのかがわかるようにしてほしい。やはり現状はあまり変わっていないのではと思った。
最近の20～30代は結婚前に同棲などをして、当たり前に男女で家事や育児をする家庭が非常に多いと聞く。しかし今回のアンケート結果をみると意識的には変わっていない感じがする。若者の意見はどう見たらいいのか。
これから子育てをしていく人が子育てしやすい環境を作っていくことが大事。実際に変わったなと実感できる施策が必要になってくるのでは。
- 事務局：年代別の回答は9ページに記載の通り、60歳代が最も多いが、各年代から幅広くとれているので、若い人の意見は全体に反映されているといえる。また、年代別の分析については、調査結果の部分で設問毎に性別・年代別のクロス集計を行っているので、参考にしてほしい。
- B委員：多くの人は調査結果まで詳しく見ないと思う。重要な設問については、総括の部分に性別や年代別の分析の結果や、前回調査の比較結果がわかるようなものを載せるなど、見せ方を工夫してほしい。また、調査結果の中にヤングケアラーの問題を入れていない。第4次プランでは入れていくことになると思うので、そういった部分も見えやすくしてほしい。
ほかの調査結果も前回調査と比較されているものもあるが、多分皆さん全部は見えていない。重点ポイントとなるとところだけでも今説明するのはどうか。例えば家庭生活の男女平等については前回調査とほとんど変わっていないなど…。
もしくは総括の概要部分で前回調査との比較の文言を入れていただくなど。
- 事務局：B委員のお話された部分については、次のプラン策定時に意識調査の結果として概要を載せる。その時には、今回出た結果をさらに分析し、今後の重点施策も載せていく。
現時点は調査の結果を集計したところまでで、課題を分析していくのはここからになるので、今回重点ポイントをお伝えするのは難しい。今から精査して進めていくので、次回に御示しをさせていただきます。

- C委員：提案だが、ここに会した皆さんは専門分野があるので、その専門分野について今後どうしていくのかのお話をするのはどうか。

私は防災の専門なので、防災のところを一番見たが、防災委員会に出席する女性が少ないという事実はある。それをどう変えていくか、本当に実行できるのか。また、地域活動に「女性が入った方がいい」と回答している人が多いが本当にそう思っているのか。女性の防災リーダーをつくるためにはどのようにしていけばいいのか。地域防災に携わる女性が増えてほしいし、そのために具体的な数字などを挙げて、数値目標のために何をしていくのかをプランに反映させてほしい。

- 委員長：防災の講座はやっているが、本当に女性の参加者が少ないので残念だ。誰が周知するかも大事だと思う。町内や自治体単位で防災会議を開くなど、具体的な対策を掲げてほしい。
- 事務局：次回以降に個別の施策の意見は求めたい。

【事業所調査報告書】

- D委員：介護休業については、40～50代の従業員が多いので取得者が多く、女性のパートさんには積極的に取ってもらっている。男性については長期休暇をとると仕事に支障が出るので、1時間単位の有給休暇を使ってもらっているなどしている。説明会や相談窓口の追加などの対応もしている。
- E委員：商工会議所では個別の企業の情報は収集できていない。商工会議所の議員企業であっても、女性の正規雇用割合が少ないことに驚いた。また、ワークライフバランスの課題として、「人手不足」がどのアンケートでも上位に来ている。特に製造業・運輸業で人手が足りていない。また、育児・介護については、規定を毎年のように変えないと追いつかず、会員向けに通知は出しているが、全会員向けに法律の変更の周知をするのが難しく、制度は設けているが、誰も取得していないような状況。また、男女共同参画に対して、個別の企業同士であまり話をしていない。（商工会議所として各企業に）踏み込みできていないのが現状。
- 委員長：介護については、今後絶対に必要となっていく部分なので、企業を先導していくようなプランができればよい。
- F委員：地域包括ケアシステムの部分が蒲郡市はまだ弱い。アンケートで、「介護サービスの充実を市に求める」という意見があったが、介護サービスは多種多様である。この調査ではどのサービスを充実させたらいいのかを読み取れないし、具体的にどのサービスを取り込めばよいのかわからない。企業が介護サービスの情報を得るだけでも変わるので、そうした機会が増えるといい。

- 委員長：育児介護休業の実態についてはわかるが、今後の具体的な取組内容が含まれていないので、企業向けや一般家庭向けの情報提供なども行っていったらいいのでは。長寿課や社協とも連携して取り組んでほしい。
- G委員：調査結果については納得できた。例えば、性的マイノリティの従業員が周りにいるかどうかというのは自分では全く把握しておらず、把握しておいた方がいいのかは疑問に思った。また、性的マイノリティの従業員に対する取組について「特に何もしていない」という意見が多いが、だからといってどんな取組をしたらいいのかわからない。
- 委員長：LGBTQ については、そういう方がいらっしゃるということの理解は必要だが、個人を把握するのはちがう。蒲郡市でも研修を行っていますし、パートナーシップ制度を活用している方がいるので、周りに性的マイノリティの人がいるかもしれないということは認識するべき。
- B委員：LGBTQ の方に対して人事評価で不当な差別をしない、アウティングをしないということは企業の備えるべき倫理観として必要。私個人としては、性的マイノリティに対して自身が「アライ」であるということを表明している。だれもが不快にならないような取組が必要。
マイノリティが、社会や学校で安心安全に過ごせるというのはとても大事で、事業者の取組として LGBTQ に対して「特に何もしていない」が多いのは問題。また、先ほど F 委員が非正規の女性が多いことに驚いていたが、これは全国的にも同じ傾向。これは女性側からしたら当たり前の問題で、103 万の壁などの問題もあるが、手元の収入が増えればもっと豊かになれる女性や子供が多い。家庭を大事にする人もいれば、バリバリ働きたい人もいる。
アンケート結果が蒲郡らしいと感じる。製造業が多く、女性の正規雇用割合が低い。また、女性の管理職割合は 3 割目標のところは 1 割程。いかに固定的かということにびっくりした。ほかの人はどう思うか。
- H委員：蒲郡市ではあまり女性の活躍が進んでいないと思う。
- B委員：これが蒲郡の現状で、前の調査と変わっていない部分がすごく多く、前進も後退もしていない気がする。前進したところはいったいどこなのか。
- H委員：蒲郡にも活躍している女性はいらっしゃると思うが、この場に活躍している女性を呼んでお話を聞いて、それがプランの中に組み込むのがよいのではないかと。活躍している方がどうやって活躍しているのかが知りたい。
- 委員長：以前は活躍している女性に来ていただいていたが、お忙しいということで日程の都合上難しくなってしまった。臨時の委員として呼び出すのはよいかも。その姿に憧れる方も多いのでは。次回からはプランの策定に向けて具体的な施策の提案をいただけるとよい。プランに盛り込んでいきたいと思う。

以上